

顔色
CARE

元気な顔になるマッサージ&メイク術

がん研有明病院 婦人科
副部長

宇津木 久仁子 先生

フェイシャルセラピスト/歯学博士/
公益社団法人 顔と心と体研究会 理事長/
REIKO KAZKI主宰

かづき れいこ 先生



主な症状

 血色が悪くなる

抗がん剤の副作用や病状によって貧血が起こり、顔色が悪くなる場合があります。
チークやピンクのリップクリームなどを付けると元気に見えます。

 皮膚が黒ずむ

5-FUや、S-1(テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム)に代表されるフッ化ピリミジン製剤は、色素が沈着しやすい薬で、顔にそばかすのようなシミが増えることがあります。悪化しないように日焼け止めを塗ることをお勧めします。

室内でも日焼けはしますので、外出する時だけでなく、室内にいる時も日焼け止めを塗ることをお勧めします。

タキサン系の抗がん剤では手足の先のほうの末梢が黒ずむことが多く、ドセタキセルやパクリタキセルでは爪が黒くなる場合があります。

 皮膚が黄色くなる

がんの発生部位や進行、肝機能の低下により、肌が黄色くなる黄疸(おうだん)が出る場合があります。

ファンデーションでカバーすることができます。

 肌が荒れる

吐き気により食欲が衰えたり、全身状態の悪化によって食事が摂れなくなって栄養状態が悪くなるため、肌荒れが起こりやすくなります。また、抗がん剤や放射線療法などによって、がん細胞だけでなく正常な組織もダメージを受け、肌が荒れることがあります。

今使用している化粧品で肌に刺激を感じる場合は、刺激の少ない敏感肌用や低刺激の化粧品に切り替えると使いやすいでしょう。